



朝一小だより

活気があふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年3月1日

児童数 585名



夢を追い続けるということ

校長 金子 二郎

今年は節分が過ぎて雪は降ったものの、先月半ばには関東地方でも春一番が観測され、暦通りに季節を迎えているとも感じます。すでに花粉症のシーズンに入っているようでもあります。保護者や地域の皆様におかれましてはお変わりございませんでしょうか。令和6年度も間もなく終わろうとしています。これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜ってきたこと、心より御礼申し上げます。



3月となり多くの学級でこの一年を振り返って4月からの新学年に向けての希望を膨らませる時間を設けています。その中で将来の夢について考えることも少なくありません。「1万人の才能を引き出してきた脳科学者が教える『やりたいこと』の見つけ方」を著した西剛志さんがラジオで子供たちの夢について次のような話をされていました。日本では就労人口の7割に当たる5,000万人がやりたいことを見つけられていないとも言われています。統計的に日本は先進国の中でも自己肯定感が低い国のよう



ですが、誰でもやりたいことがわかると自己肯定感が上昇します。やりたいことを見つけられない原因はたくさんあります。例えば子供たちの夢は、実は本当の夢ではないことがあります。メジャーリーガーになりたいと考えている幼児に「年収の低い野球選手になりたいか」と聞くと「なりたくない」と答えます。また「1軍ではなく2軍でも野球の選手になりたいか」と聞くと「やはりなりたくない」と答えます。さらに夢や希望を与えられない選手でもなりたいかと聞くと「絶対なりたくない」と答えます。要は、子供たちは野球選手になりたい訳ではなく、野球選手になった時に得られる感情を求めています。



年収が高ければ何でもでき、自由であるという感覚が得られるのかもしれませんが、認められていれば「貢献している」という感覚が得られます。野球選手になれたとしてもその感覚が得られなければ「思っていたのとは違う」ということとなります。私達は仕事を捜す時に形つまり仕事という枠を捜しがちです。でもうまくいく人は仕事ではなく自分が手に入れたい感情は何なのかを理解した上でそれを満たす仕事は何かを考えているようです。自由になりたいのであれば必ずしも野球選手である必要はなく、経営者でも構いません。自分が知る範囲でしか選択肢がありません。自分の周りにどのような環境が整っているかによって選択肢が決まります。感情を理解することで見え方も変わってきます。そうすると意外と気付かなかった「この仕事」が向いているのを発見することもあります。将来どんな仕事をやりたいかと聞くのではなく、別のアプローチもあるようです。子供たちに夢を与えるためには具体的なイメージを用意するだけでなく、自分が欲している感情が何なのかについて考えることができ、将来にわたって選択肢をできるだけ広げられる環境を用意することが大切なのかもしれません。そういえば、「先生の夢は何ですか」と訊ねられた時に胸を張って答えられるか不安にもなってきました。まずは自分の気持ちに素直に向き合っ、己の夢を語ることでできる大人になることから始めるべきと思いました。



自分も楽しくやって、見ている人を魅了して夢を与えられるようになりたい (野茂英雄)